平成25年春季全国火災予防運動

３月１日（金）～３月７日（木）

統一標語「消すまでは　出ない行かない　離れない」

３月１日から一週間、全国一斉に平成25年春季全国火災予防運動が実施されます。
火災が発生しやすくなるこの時季、火の用心を心がけ、防火に関する正しい知識と行動力を高めることで、よりいっそう「安全・安心のまちづくり」を進めましょう。

平成24年の高槻市内における火災件数は120件で、平成23年に比べ31件の増加となりました。また、残念なことに火災により2名の方が亡くなられました。
全火災を出火原因別に見ると「放火(疑い含む)」が45件で一番多く、次いで「たばこ」が18件、「火あそび」が9件となっています。

平成25年春季全国火災予防運動の重点目標
（1）住宅防火対策の推進
（2）放火火災・連続放火火災防止対策の推進
（3）特定防火対象物等における防火安全対策の徹底
（4）製品火災の発生防止に向けた取組の推進
（5）林野火災予防対策の推進

高槻市消防本部
マスコットキャラクター
「はにたん」

住宅防火対策の推進

全国の住宅火災による死者は、毎年1,000人を超えており、そのうち半数以上が逃げ遅れによるものです。火災から逃げ遅れないため、「住宅用火災警報器」を設置しましょう。

住宅防火を図るため、次のことを心がけてください。
- 住宅用防災機器の設置推進
- 防炎物品及び防炎製品の使用の推進
- 火気使用設備・器具及び電気製品等の点検・整備等の推進
- 住宅防火「いのちを守る　7つのポイント」の励行

住宅防火　いのちを守る　7つのポイント　―3つの習慣、4つの対策―

3つの習慣

①寝たばこは絶対やめる。
②ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
③ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。

住宅用火災警報器が鳴ったらすぐに避難しましょう！！

4つの対策

④逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。
⑤寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、防炎品を使用する。
⑥火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置する。
⑦お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。

放火火災・連続放火火災防止対策の推進

高槻市の平成24年中における『放火・放火の疑い』による火災は45件で、全体の37．5%を占めています。　これは原因別にみて24年連続1位となっています。

放火されやすい場所

○ 玄関先，軒下
○ ゴミ収集場
○ 建物共用部分（廊下，階段室，エレベーターホール）
○ 駐車場
○ 駐輪場　　など

放火による火災（放火の疑いを含む）は、火災原因の第1位を占めています。夜間人目につかない時間帯、特に就寝時間帯の深夜0～4時に多く発生しており、一般住宅や事務所などの建物への放火だけでなく、車両や廃車、敷地内の可燃物に放火され、火災になるケースも多くなっています。

放火は地域の治安にもかかわることですから、地域の安全を守るために、地域住民が協力して「放火されにくい環境をつくっておく」ということです。「放火されない、放火させない、放火されても被害を大きくさせない」をスローガンに防火対策に取り組むことが必要です。皆さんも、自治会や町内会など地域ぐるみで、放火されやすい場所や状況などを把握し、対策を話し合ってみてはいかがでしょうか。

1.建物に対する放火防止対策

◎ 空き家・無人倉庫は施錠をするなどの管理を十分に行いましょう。
◎ 建物外周部、倉庫、物置、車庫、共同住宅等の玄関ホールや階段室などは施錠をきちんと行い、外部からの侵入を防ぎましょう。
◎ 建物の周囲には燃えやすい物を置かないようにしましょう。

2.車両に対する放火防止対策

◎ 車内に侵入して放火されるケースも見られるので、車両の施錠管理をしっかり行いましょう。
◎ 不用意に車を放置しないように心がけ、車両のボディカバーには防炎製品を使用しましょう。

3.地域における放火防止対策

◎ ごみは決められた日、決められた時間に出しましょう。
◎ 夜は門灯・街灯をつけ、家の周りを明るくしましょう。
◎ 照明器具等の設置により暗がりをなくしましょう。
◎ 近隣への声かけ運動をするなどして、放火を行おうとしている者に対して周囲から「見られている」と感じさせ、放火を防止しましょう。

防火安全対策の徹底

<u>全ての住宅に住宅用火災警報器の設置が必要です！</u>

住宅火災による死者数を減少させるため、平成23年6月より全ての住宅（自動火災報知設備等が設置されているものを除く）に住宅用火災警報器（以下「住警器」という）の設置が義務化されました。みなさまのご家庭ではもう住警器を設置されましたか？

住警器は、火災の煙を早期に感知してあなたやあなたの家族の「いのち」を守ります。まだ設置されていないご家庭では早急に設置しましょう。また、すでに住警器を設置されているご家庭でも、いざという時に作動するように日頃からの維持管理をお願いします。

◇ 日頃のお手入れと作動確認　Q&A ◇

1、掃除はどうすればいいの？
　⇒ 住警器はホコリが入ると誤作動を起こすことがあります。定期的に掃除を行ってください。
　　掃除の方法は、機種によって異なりますので取扱説明書で確認してください。

2、作動確認はどうすればいいの？
　⇒ 住警器は電池が切れると作動しなくなります。定期的にボタンを押すなどして作動確認をしてください。

3、火災でないのに警報音が鳴ったときの対処方法は？
　⇒ 調理時の湯気や煙、ホコリなどが原因で警報音が鳴る場合があります。この場合、取り付け位置を変更しましょう。また、ピッと短い音が一定の間隔で鳴る場合は、電池切れの音です。電池を交換するか、新しい機器に交換して下さい。

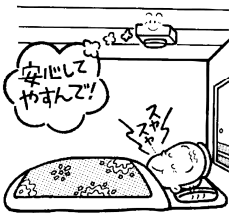
4、燻煙（くんえん）式の殺虫剤を使用しても大丈夫？
　⇒ 燻煙式の殺虫剤等を使用する場合、住警器が誤作動を起こすことがあります。住警器を取り外したり、ビニール袋で覆ったりしてください。また、使用後は速やかに元に戻してください。

◇ 住宅用火災警報器　奏功事例 ◇

- 居住者が、鍋をコンロにかけて温めている途中に居眠りをしてしまったため、鍋から煙が上がったが、台所に設置していた住宅用火災警報器の警報音で目が覚めて、コンロの火を消したため火災に至らなかった。

- 居住者が、就寝時に電気ストーブを消し忘れたため、近くの毛布に着火したが、寝室に設置していた住宅用火災警報器の警報音で目が覚めて、水バケツで初期消火し、119番通報した。

寝室に住宅用火災警報器を取り付けましょう！

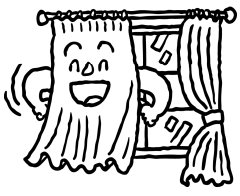


<u>防炎品の普及促進</u>

近年発生した住宅火災における着火物の状況をみると、その約3分の1が衣類、寝具類やカーテン等が原因となっています。また、65歳以上の高齢者では、その割合が更に大きくなります。今後、本格的な高齢化社会を迎え、着衣着火等による犠牲者の増大が危惧されることから、衣類、寝具類やカーテン等に防炎品を使用することが、住宅火災の発生と死者の低減を図る上で有効な対策と考えられます。

また、放火防止対策として、自動車やオートバイ等のカバーに防炎品を使用することも有効といえます。

防炎品のカーテンを使いましょう。



※　防炎品が役に立った事例

リビングで夕食の準備をしようとカセットこんろにボンベを装着して点火したところ、こんろ脇から漏れていたガスに引火し、炎が噴出し、室内のカーテンの一部を焦がした。

製品火災防止について

電気製品、燃焼機器、自動車といった日常生活において身近な製品が発火源となる火災が発生しています。
長期間ご使用の家電製品は、熱、湿気、ほこりなどの影響により、内部部品が劣化し、発熱、発火のおそれがありますので、使用中に異常な音や振動がしたり、焦げ臭いにおいがするなどの症状が見られる場合には、電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店またはメーカーにご相談ください。

※電源コードにご注意ください

◎電気コードが事故につながる可能性がある場合
・コードを釘やステープルで固定している
・コードを継ぎ足してビニールを巻いている
・コードを強く曲げている
・タコ足配線をしている

※電源プラグにご注意ください

◎使用を中止したほうが良い場合
・配線が切れかかっている
・電源コードやプラグが異常に熱い
・焦げ臭いにおいがする

林野火災予防対策の推進

平成25年山火事予防の標語
『山の火事　もとは小さな　火種から』

冬から春先にかけては山火事が多くなる季節です。日本で発生する山火事の約7割が、12月から4月にかけて集中して発生しています。この時期の山は、積もった落ち葉が燃えやすい状態になっていることに加え、空気が乾燥し、小さな火でも燃え広がりやすくなっています。そうした中で、農作業の枯れ草焼きなどで火入れが行われることや、行楽や山菜取りで山に入る人が増え、山の中で火を使うことなどが火災の発生原因になっています。山火事の出火原因の半数は、たき火、たばこ、火入れなど人為的なものです。
火の消し忘れなどちょっとした不注意が、大きな山火事になりますので、山の中で火を使うときは、気象状況や周囲に燃えやすいものがないかなどに注意しましょう、また、近くに消火用の水を必ず用意し、火から離れないようにしてください。そして、たばこの投げ捨ては絶対にしないでください。たばこの灰や吸殻は、携帯灰皿に入れて持ち帰りましょう。
山火事は、いったん発生すると消火は容易ではなく、貴重な森林を消失するばかりか、その回復には長い年月と多くの労力を要することとなりますので、山での火の取扱いには十分気をつけましょう。

ゴミ収集車の火災防止について

スプレー缶やカセットボンベが原因によるゴミ収集車の火災が多発しています。
中身を使い切り、リサイクルごみの日に出してください。